

輸血検査学術研修会報告書

生涯教育研修会報告書

学発番号 第 12-055 号

平成 25 年 2 月 20 日報告

報告者：笹田 裕司

所属：京都府立医科大学附属病院

連絡先：075-251-5891

主題：輸血検査研修会

スクリーニング検査で全部陽性になった！こんなときどうする？

事例① 生理食塩水法で全部陽性になっちゃった！

事例② 酵素法で全部陽性になっちゃった！

事例③ 抗グロブリン法で全部陽性になっちゃった！

コメンテーター：木村恵子氏（日本赤十字社 近畿ブロック血液センター）

司会進行：笹田裕司（京都府立医科大学附属病院）

事例①：住田由香理（京都府立医科大学附属病院）

事例②：井上和子（京都桂病院）

事例③：万木紀美子（京都大学医学部附属病院）

日時：平成 25 年 2 月 16 日（土） 15：00 ～ 17：30

場所：京都保健衛生専門学校

分類：検体検査 52 20 点

全体参加人数：55 人

会員参加人数：39 人

学生参加者：0 人

以下、講演内容など

日常の輸血検査では、しばしば困った問題が生じ、輸血担当技師が「どうしようか？」と頭を悩ませることに遭遇する。そんな時、どう対応すればよいのだろうか。本プログラムではどこの病院でも日常の輸血検査業務の中で遭遇しそうな症例を採り上げて事例検討を行った。このプログラムは演者の一方通行的な発表ではなく、参加者も討議に加わってもらい一緒に考えてもらった。討議の後、コメンテーターによる解説があり、日頃の困った症例への対応の一助になったのではないだろうか。

検査技師には医療チームの一員として、専門知識を生かした医療活動が求められるが、他の医療スタッフへの説明等コミュニケーション能力も必要である。今回の研修はそのような能力開発を図るうえでも有用であったと考える。今回の研修を日頃の職務に生かしていただきたいと思う。